

令和2年

奥州市総合教育会議

会議録

第2回定例会 1月25日開催

奥州市

1 開会、閉会等に関する事項

開催日時 開会 令和2年12月25日（金）午後3時30分

閉会 令和2年12月25日（金）午後5時15分

開催場所 市役所本庁 7階 特別委員会室

2 出席者の職及び氏名

小 沢 昌 記 市 長

田面木 茂 樹 教育長

吉 田 政 教育委員（教育長職務代理者）

高 橋 キ エ 教育委員⇒欠席

及 川 憲太郎 教育委員

藤 田 登茂子 教育委員

3 説明のため出席した職員

（教育委員会事務局）

千葉昌教育部長、及川協一教育総務課長、佐藤利康学校教育課長、

鈴木常義歴史遺産課長

事務職員出席者：菊池長教育総務課長補佐

（協働まちづくり部）

浦川彰部長、岩淵清彦生涯学習スポーツ課長

（健康こども部）

千葉達也保育こども園課長、昆野浩子こども家庭課長

千葉康行こども家庭課長補佐

（財務部）

菅野明史行政経営室副主幹

4 主要議題

奥州市の教育施策に関する意見交換

①「教育・保育施設の再編に係る『施設統廃合ロードマップ』の策定について」

②「公共施設等総合管理計画・個別施設計画策定に係る、市の考え方及び現状について」

5 協議の概要

開会、市長・教育長挨拶、主要議題の協議

第1 開会

千葉教育部長が開会を宣言

以降の日程のうち第3までは千葉教育部長が進行、第4以降についてはテーマに従い小沢市長が座長となり議事を進行。

第2 市長挨拶

今回は、①「教育・保育施設の再編に係る『施設統廃合ロードマップ』の策

定について」と②「公共施設等総合管理計画・個別施設計画策定に係る、市の考え方及び現状について」の二つのテーマについて意見交換を行うこととした。

お集まりいただいた教育委員各位と意見交換しながら課題解決の方向性を探ってまいりたい。

その他、出席者各位より教育施策全般についてご提言いただき、本市の教育における方向性の明確化や、具体的な施策への反映を図ってまいりたい。

第3 田面木教育長挨拶

平成 27 年 4 月の地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正に伴い、開催することとされた会議である。年度において 2 回の定例会を開催することとしているが、これまでの会議においては、奥州市教育振興基本計画を市の教育における大綱に位置付けることの決定や、市の教育における重点施策である『学力向上』と『健全育成・生きる力を育むこと』、また、市立教育施設等の再編といったテーマに対して、市長及び教育委員各位より意見をいただいていた。

今回は二つのテーマについて、出席者各位より意見を頂戴し、奥州市の教育における方向性の明確化や、具体的な施策への反映を図ってまいりたい。

第4 協議事項

テーマ①「教育・保育施設の再編に係る『施設統廃合ロードマップ』の策定について」

【内容説明】

千葉達也保育こども園課長が資料に基づいて説明。(別紙参照)

【協議】

及川委員：小中学校の再編があり、保育施設の再編もさけられない。進め方では周知不足があると思う。せっかく計画を策定しても周知不足で市民が戸惑い、理解を得られないのは残念。きめ細かく丁寧に対応することが大事。市の考え方、財政の根拠、施設の老朽化、市立の役割などきちんと説明すれば理解も得られる。市の方針としてサービスの空白地域をつくらないということ、この部分が市の考えと市民の考えに乖離があったように思う。再編ありきで進めていくと、空白地域の本当に困っている人にとっては、施設そのものが最後の砦となってしまいうので、市民サービスとして残すものは残した方が良い。先送りすることなく、子どもたちにとって良いものとなるように願う。

藤田委員：園児数が減っていることから再編は考えなくてはならないが、今回、公立幼稚園の 2 年保育の説明が園児の募集時期と重なり、戸惑いを感じた保護者がいた。再編に対してはくれぐれもそのようなことがないように、時間に余裕を持った説明をしてほしい。公立が私立をカバーする特色を持った内容として、延長保育や時間外の一時的預かりや病後児保育などがあり、特化した施設があれば、保護者からすればありがたい。自分事ではあるが、子どもが幼稚園に入る前に自分が病気をしたとき、預けたい施設が江刺には 1 カ所しかなく、「アレルギーがあると給食は用意してください」とか様々な要件

で子どもを預けられなかった。同じような悩みを持った保護者や仕事を持った保護者が助かる施設があれば良い。

吉田委員：少子化、老朽化、財政面により統廃合が進み、認定こども園にすることは時代の流れでしかたがない。統廃合による問題は、通園距離であり、保護者にとっては気になるところ。通園場所は保護者の希望によることから、認定こども園を設置しても入れることは分からないことが課題でもある。住民が了承し円滑に進めることで統廃合をしていけば良いと思っている。

田面木教育長：ロードマップは、これまで教育委員会として協議してきた。主旨は待機児童の解消や老朽化への対応である。課題は小学校に入学する特別支援の子が増えてきていること。入学前の子どもへの教育や対応が必要で、いずみ保育園のような特化した施設を拡大していくことが必要であり、今後考えていかなければならない問題。幼稚園、保育園は学区がないので、小学校では、どこの幼稚園、どこの地域から入ってくるのかが気になり、更なる情報交換や引継ぎをしっかりとすることが必要。

小沢市長：教育に携わる方は一定の理解をしていると思うが、保護者の方が計画等を理解しているか、様々な情報を発信しているかもポイントになる。受信力が弱い保護者もおられることから、理解できるようしっかりと伝えることが重要であり、担当は、今出た話をしっかりとまとめていただき、計画を進めるうえでの道しるべとして欲しい。

吉田委員：保育士が足りないとの話題があるが、今どれくらい足りないか。

千葉保育こども園課長：アンケートにより公立、私立で年間 10 名ほど足りていない。配置基準の職員は足りている。課題は、特別支援のお子さんで、対象者が 100 人を超えている。一人に一人、二人や三人に一人の保育士を加配することになっており、その分の保育士を確保するのが難しく、その部分で待機児童が出ている。当市は県内でも手厚く対応しているところだが、まだ保育士が足りていない。私立で保育士を加配したときは、市から補助をすることにしているが、一関市では手帳を持った障がいのお子さん分だけ補助している。

吉田委員：昔に比べて特別支援の子は多様になっている。不足しているのは、専門性をもった保育士なのか。専門性を持っていないときは、学習する機会はあるか。

千葉保育こども園課長：専門性が必要な場面が増えている。当市では発達支援センターを整備しており専門の職員がいる。その方々に公立、私立の園を訪問していただいている。今は身体障害よりも発達障害の子が多いことから、専門職員の助言を受けながら対応している。

小沢市長：加配に適応できる保育士を増やすことを考えて行かなければならない。保育士を目指す若い力に奥州市が目指す保育の在り方を高らかに標榜しながら、教育者として持てる力を発揮できる環境を整え、その力を貸してほしいとアピールすることも大切。

吉田委員：教師時代、家庭教育が大切だといって事業をしても、来てほしい親が来ない。読んでほしい親は読まないという現状があった。親が揃うのは入学説明会や就学時健診等のとき。その時に子どもにとって大切なことを話す

ことが大切ではないかと考えている。あるまちでは、特別支援の子どもたちを、皆で見守り育てるという環境をつくり、特別支援の保護者の気持ちが楽になったという。入学の前に、そのような親への学習の機会や啓発があったら、皆で見守るという雰囲気ができて更に良いと思う。

小沢市長：男女共同参加、性差における差別をなくすことが声高に叫ばれているが、なかなか変えられない状況にある。小学校の特別支援学級に通うこと自体が恥、隠したいという社会がある。そうではなく、個性だと社会的に認めなければならない時代に来ている。子どもが生まれたら、親が子どもにどうするかだけでなく、親の資質をあげることがこどもの能力を上げる大きな力になることを教えることも必要。アプローチできる時期が就学時健診等の時期なのかと思った。

田面木教育長：どう子どもを伸ばすかが大切。特別支援の子に手厚くしておりもっとやってほしいという親がいる状況。生まれたときから小学校、中学校の流れで様々な教育や指導をしているが、更に情報共有をして、就学時健診などで指導することも検討していく。

小沢市長：子どもの多様性をどのように認め、育てていくかという新しい時代のなかで、正しい対応を進め、小、中学校の教育に結びつけていかなければならない。教育は永遠のテーマであり、時代の変化にどのように対応していくかが大切。

②テーマ「公共施設等総合管理計画・個別施設計画策定に係る、市の考え方及び現状について」

【内容説明】

昆野浩子こども家庭課長が資料に基づいて説明（別紙参照）。

【協議】

及川委員：放課後児童クラブの喫緊の課題は、待機児童の解消が第一。共働きの多いなかで、親とすれば希望すれば入れる方がありがたい。老朽化施設でも預けたい親が多いが、受け入れが厳しいということをよく聞く。受け入れられない事情は分かるが、祖父母がいるだけで断られるとショックを受ける。祖父母がいるイコール見守りが可能ではないので、事情をきめ細かく見てほしい。自分の親は働いており、児童クラブに入れたが入らなかった。その頃、放課後は校庭で過ごし、帰りの放送で帰った。今は授業が終われば「すぐ帰りなさい」と言われる。できれば、放課後学習のような居残りの時間を設けていただけたらと思う。兄弟でも学年が違えば、低学年の児童が一人で帰ることになる。その際に空き教室があればそこで時間を過ごし、兄弟で帰ることができるのと思った。祖父母でもパートで働く方が多く、午後2時、3時の時間帯にいないことが多い。せめて4時から5時まで学校にいてもらえれば助かる。空き教室があれば学校にお願いできればと思う。児童クラブで新しく開設するとあったが、使わない教室を使うというのは良いと思った。お金をかけて離れた地域に建て直す必要は感じない。学校で解決できるのであれば非常に良い。旧学校の利用も良いと思う。スクールバスや光熱費などの管理費と新しく建てた費用を比較して考えることも必要。

藤田委員：私の子どもは岩谷堂小学校に通っていた。岩谷堂小学校が移転したとき、3つの児童クラブが一つになり学校の敷地内にできた。希望人数が多く一人当たりのスペースが狭く、待機児童が発生した。当時は児童クラブの参加が少ないと次回はいれないという厳しい条件だった。子どもが人間関係で行けなくなり、出席できずに次の年に入れなかったという話も聞いた。共働きで預ける場所がないと大変なので、そこを重要視してほしい。週末の土日、祝日に働いている親も多いので、土日、祝日も預かってくれる場所があったら助かることから充実してほしい。学校の空き教室の活用は良い。岩手県では、二戸市、遠野市の学校で転用し活用している。光熱費や施設などの問題はあつた。空き教室は全国で8万教室以上あり、そのうち7万9千教室はなんらかで活用しているという。今後、空き教室を活用することは考えていかなければならないと思う。

吉田委員：放課後児童クラブと放課後子ども教室の違いについて教えてほしい。

昆野こども家庭課長：放課後児童クラブは、共働きの子どもたちを預かるもので、放課後に面倒を見る親がいない家庭が対象。放課後子ども教室は、子どもの健全育成のために体験活動や地域との触れ合いのために、地域の方が主体となって提供しているもので、児童全員が対象となっている。

市長：放課後児童クラブは鍵っ子対策で厚生労働省が管轄。放課後子ども教室は、来るもの拒まず文部科学省が管轄している。

吉田委員：課題として支援員の確保が難しいとあるが、支援員を選定しても、今まで何をしてきたかによって教える内容が変わってくる。放課後子ども教室の現場を見たが、学校から来た子どもの挨拶や靴のそろえ方を注意し、宿題をさせた後に皆で遊ばせ、けがの無いように見守っていた。支援員の業務として、挨拶や靴のそろえ方という躰をするのか、ただ遊ばせるだけなのかなど、支援員によって違いが出てくる。一応の指導マニュアルがあるのか気になった。指導は均一化した方が良い。

平成の始めは生涯学習時代と盛んに言われ、地域と学校が学社連携、学社融合ということで、地域との交流があつた。その際には空き教室を活用し、放課後に子どもたちが地元のお年寄りと遊ぶ場所をつくつた。地域の方も使えるようにして、地域と融合するような場となった。今後、少子化により空き教室が増加することから、放課後子ども教室として活用することは、新しく施設を作るよりは良いことと思う。

田面木教育長：空き教室をどのように使うのかが一番の課題。再編を進めているが、放課後児童クラブをどうするかという話もある。再編の説明会では、旧学校に戻って放課後児童クラブに行くことも一つの方法と話しているが、ずっと継続できるのかという問題もあることから、検討が必要となっている。水沢は令和26年を目途に空き教室を使うとなっているが、現状では無理だと思っている。放課後児童クラブと放課後子ども教室をごちゃ混ぜにしている保護者がいる。土日に放課後児童クラブと同じように開けてくれという要求が出てくると思う。それは違うと言っても納得されない可能性がある。国の方針として放課後児童クラブと放課後子ども教室の一体化が検討されているが、子どもたちを放課後どのように過ごさせるか、生き方についてきちっ

と示さないと、児童クラブで宿題や躰を教えることとなる。家に帰ったら何をするのか、家ではテレビ、ゲームをするだけとなるのは間違いだと思う。親としての責任はどうかを自覚させなければならない。学校の先生が土日に見るのは、はっきり言えば不可能。文部科学省は指導要領を増やし働き方改革を進めているなか、先生方は対応できない。教育委員で考えているのは、学校運営協議会、学校支援本部の推進で、放課後に子どもたちを地域でどう見るかということ。今後検討する必要がある。昔のように放課後に学校で遊ばせるシステムをつくってはどうかと思う。放課後に子どもたちを遊ばせ、けがをしないように見てもらう。そのためには学校の時程を見直すことが必要。現在、先生方は放課後に触れ合う時間はない。これをどう変えていくかが必要。常盤小学校で、学校の教科指定は通常午前中は4時間授業のところを5時間授業とし、放課後1時間の授業を子どもと触れ合う時間として実践しており、すごく良いと聞く。これにより放課後の子どもたちの余裕を生み出すことになる。放課後の過ごし方、生き方、考え方について検討していかなければならない。何でも学校等を頼ってしまわないようにしなければならない。支援員は研修、資格が必要だが、現場では大変だ。文部科学省は鍵っ子対策として児童クラブで躰や宿題をさせているが、本当にそれで良いのかは疑問。これからの学校として考えなければならないのは、学校運営協議会をもう少し広げていく、地域、親の役割をもう一回見直すことで進めていくこと。空き教室の活用はハードルが高いと思っている。

小沢市長：放課後の学習の在り方、人間関係も含めてトレーニングする在り方は極めて重要である。幼少期時代に、様々な経験を積み、奥州市は良いところだったと故郷に対する自負心を感じてくれる。吉田委員が話された指導員の質の向上、施設の改善にかかる費用、適切な情報を求めるために必要な機器等にかかる経費等、内容が良ければ市長部局として予算を獲得したい。子ども教育ではなく親教育をしながら、地域全体で育てていくことが重要。

及川委員：放課後児童クラブの今後の在り方で、余裕教室の活用と検討とあるが、現時点の問題や課題はあるか。

昆野こども家庭課長：学校として管理する上で、別組織の方々が入ってくることで、受け入れが難しいというのが一番の課題。それを払拭するために、放課後になったら区切れる壁を設置したり、学校の玄関ではなく別の玄関を設置したりして進めたいと考えている。

及川委員：新たな設備の設置は大変なことであり、受け入れがスムーズに行けば、わざわざ設置も必要ない。空き教室を利用することは良いことと思う。

小沢市長：どこまでが学校の責任の範囲で、どこまでが放課後児童クラブの責任の範囲かを明確化しないと、学校敷地内で起きた事故は全て校長の責任だということになると、校長が大変なことになる。そこまで負担を求められると学校は対応できなくなる。

吉田委員：市の施設が老朽化して再編している。施設を一般の会社に売ったり貸したりすることは検討しないか。例えば、雫石町では、閉校した学校の天井の高い体育館を、オリンピックを目指す東京のトランポリン競技の選手が練習している。一関市門崎の格之進という企業が、廃校を活用して工場に活

用している。

小沢市長：財務部の財産運用課が担当しており、民間の智恵を使い、良いアイデアを出してもらい、空き教室や空き施設を一括で貸し出しできる仕組みをつくることについて、指示を出している。施設を自由に改修したり、教室を民泊や合宿所に使いグラウンドを自由に活用するなどアイデアは様々ある。来年度中に仕組みができればと考えている。

第5 その他 なし

閉会